

2019 年度事業報告書

2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所

I 事業の成果

1. 組織構築上の課題

1) 財務状況等

財務状況は 2018 年度より改善しており、自主事業による展開に成果が現れてきている。

寄付金事業については、全体で 938,160 円の寄付があった。そのうち用途を指定した寄付として、河北潟研究奨励助成への寄付金が 29 万円集まった。これは、河北潟研究助成への応募 2 件の採用に際して、理事・会員に対して特別に寄付を募ったものである。

昨年に引き続き、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様より「eco 保険証券・Web 約款選択件数に応じた寄付活動」に基づく寄付金 16,5000 円を昨年度に引き続きいただいた。

寄付集めのツールとして、年次報告を作成した。

2) 会員数・ボランティア

インターネットのボランティア募集サイト「activo」より 3 名の応募があり(一部 2020 年度 4 月を含む)、当研究所の活動への関心の拡がりを感じられる。

2. 研究活動の進展

1) ビジョンプロジェクト

ビジョンプロジェクトについて研究の枠組みができ、高木基金の助成を受け、現地調査及びアンケート調査を実施した。

陸水学会において、汽水湖に関する自由集会を主催した。

アンケート調査に基づいてワークショップを開催した。

2) 河北潟研究奨励助成

河北潟研究奨励助成を 2 件採択した。

3) その他の研究調査

アクト・ビヨンド・トラストの助成を受けて水田の生物調査を公募により集まった市民とともに実施した。調査結果をパンフレットにまとめた。

農地水の活動として、干拓地において、動植物保全のための調査を実施した。

湖岸植生保全事業として、湖岸の植生と水質に関する調査を実施した。

4) 機関誌紙

かほくがた 25-1 号を発行した。

3. 地域連携の構築

1) 河北潟自然再生協議会

河北潟湖沼研究所が事務局となっている河北潟自然再生協議会の取り組みとして、河北潟クリーン作戦実行委員会、湖面利用協議会、河北潟自然再生まつりを軸とした実践的な活動は例年どおり実施した。

第 25 回および第 26 回河北潟クリーン作戦では、実行委員会の事務局として活動した。2019 年 4 月の第 25 回クリーン作戦は 714 名が参加した。第 26 回については、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け中止となったが、研究所メンバー 3 名とボランティア 4 名で湖北大橋付近で自主的なゴミ拾いを実施した。26 回は 25 回を上回る多くの企業協賛が集まった。

2) 地域連携の拠りを作る（企業・団体・NPO との連携の課題）

流域連携を目指しとりくみとして、シンポジウムを 1 回開催した。

ラムサール条約登録を目指した連携として、日本野鳥の会石川、森の都愛鳥会とともに話し合いを 1 回実施し、合同の探鳥会を行うことが協議された。

4. 実践活動

1) 七豊米

無農薬で 8 年目となった。2019 年は水路の泥上げから活動をはじめ、苗代作り、除草、稲刈り等様々な作業を会員、一般のボランティア等たくさんの方のご協力を得て実施した。のべ 115 名（体験含む）が参加し、430kg の米を収穫した。

2) 外来植物除去活動

河北潟の水辺に繁茂する外来植物チクゴスズメノヒエ除去活動を、今年度も 11 月に関係機関と連携し、参加を呼び掛けておこなった。

河北潟干拓地 11 月 20 日、金沢市二日市地区 11 月 21 日、金沢市大場地区 11 月 24 日の 3 地区で実施した。河北潟干拓地の除去活動では、石川高専の協力をいただき 44 名が参加して、中央幹線排水路沿いのセイタカアワダチソウの抜き取り活動を実施した。

3) 自然観察会・シンポジウム等

受託業務を含めて、観察会（バスツアー含む）を 6 回実施した。

シンポジウム、ワークショップを 3 回実施した。

5. 自主事業の展開

1) 生きもの元気米・生きもの元気農産物・加工品

2019年産は、前年とほぼ同じであり、14枚、5.2haの圃場において6軒の農家と契約し、6.7tを取り扱った。

加工品として玄米がゆ、米粉の製造と販売を行った。

生きもの元気レインコンとして1枚のほ場と契約し販売をおこなった。

2) すずめ野菜の生産と販売

2019年は約40種類の野菜を生産した。

活動の広がりとしては、石川高専の留学生が研修として6月に生産活動に参加、合同会社金沢市民発電所、グリーンピースジャパン等のイベント等で利用された。

3) 金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ

2015年より開始した「ゆうぐれ金曜マルシェ」は、2019年も毎週金曜日に、計32回開催した。これまでの参加農家は12軒となったが、当研究所以外の継続的な出店は1~4店舗にとどまっている。

4) ネットショップについて

2019年度は以下のネットショップで販売を行った。

- ・河北潟湖沼研究所のお米屋さん（主に米を販売）
- ・すずめ野菜（主に野菜を販売）
- ・おこめナビ（外部サイトに出店）
- ・カホクガタ（米を販売）

5) 河北潟カレンダー

650部を製作、販売した。

6) 市民科学出版

2冊の書籍を刊行した。

両生類に魅せられて～カエルとサンショウウオの長期研究と最新の研究～
クロマツ枯死を電子顕微鏡で解明

6. 受託事業

受託事業については、地域連携事業として、グリーンアースと共同で取り組んでいる2件の事業を実施した。また、こなん水辺公園への解説員派遣を行った。

NPO 法上のその他の事業として 2 件の事業を受注した。

1) 河北潟干拓地農村環境保全活動

グリーン・アース農地・水・環境保全組織より、農地・水保全管理支払交付金における農村環境保全活動に係る計画策定業務を受け、現地調査および生態系保全計画の提案をおこなった。

防風林帯の生態系保全にむけた調査、圃場の外来植物、農作物を食害する野ネズミ類の捕食者であるノスリなど猛禽類の生息数調査、カモ類調査、建設された太陽光パネルの影響をみるための鳥類調査、揚水機場タンクにおいて沈水植物の増殖実験などを実施した。

2) 県植生保全管理事業

本事業では、河北潟干拓地を中心に植生保全を通じた水質浄化の調査研究、環境啓蒙活動を行った。具体的には以下のような事業を行った。

- ・西部承水路緩傾斜護岸にクロモとトチカガミを移植、経過観察。前年度までに補植したアサザの経過観察。
- ・干拓地排水路でのセイタカアワダチソウ等外来植物除去活動と、過去のチクゴスズメノヒエ除去活動実施地点のモニタリング調査の実施。
- ・河北潟の過去の水生植物の調査、現在の湖岸植生、水深、透視度調査。
- ・干拓地での自然観察会、外来植物を利用した花染め体験。 等

3) こなん水辺公園

前年度までに引き続き、来園者に対し自然解説を行う業務を全 78 回実施した。「こなん水辺公園へようこそ」という facebook ページで、園内の自然や動植物について紹介した。

7. 助成金事業について

1) 地球環境基金

「河北潟の水辺保全活動をすすめるための流域がつながる仕組みづくり」との名称で 2017 年度より 3 年間計画で活動をすすめた。2019 年度は 310 万円の助成金で、以下のような活動を実施した。

- ・3 年間の活動成果をはかるため、河北潟流域に関するアンケート調査を金腐川と森下川流域住民を対象に行った。
- ・河北潟流域をめぐるプログラムを 3 回実施し、計 70 名が参加した。
- ・流域のつながりについてまとめた A2 サイズのパンフレットを制作した。また河北潟周辺の水辺保全活動についてもまとめたパンフレットを制作した。また保全活動についてまとめた動画も制作し、youtube や facebook で公開した。
- ・3 月にシンポジウム「河北潟から考える多様な主体の連携による流域の保全」を実施し

た。Zoomでのネット配信も行った。

2) アクト・ビヨンド・トラスト

市民参加の水田調査を実施し、特に、ネオニコ空散前後の陸生動物の動態を、空散を行った水田と行っていない水田とで比較することにより、空散の影響を市民とともに実感することができた。

空散マップの作成により、空散を行わない圃場が増えており、ある程度の面積となっていることが明らかとなった。

2000名のアンケートを実施し、ネオニコのことを知らない人が圧倒的に多いことと同時に、情報を得ることで意識が変わることが確認された。調査結果のパンフレットについては、ネオニコが水田で使われることの問題に関心を増やす上で有効なツールとなった。

プロモーションビデオを作成した。

3) 高木基金

潟の再汽水化を展望するために必要な基礎研究を行った。今回は特に、河北潟を再汽水化する上での課題を整理するため、①河北潟の現状における汽水域の状態とその問題の解析のための現地調査、②河北潟の現状や再汽水化に対しての市民の意識動向の把握のためのアンケート調査を実施した。

II 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事 者の 人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
研究・広報及び日常活動	河北潟の自然環境等の研究、 広報誌の発行、通信活動等、 研究助成	2019.4 ~ 2020.3	河北潟及 び周辺	7	全国の研究 者、地域住民 等 110 万人	381
アクトビヨ ンドトラス ト助成事業	ネオニコチノイド系農薬の使 用にかかるキャンペーン	2019.4 ~ 2020.3	河北潟周 辺	20	地域住民等 10 万人	1,046
高木基金助 成	河北潟再汽水化に係る研究事 業	2019.4 ~ 2020.3	河北潟及 び周辺	10	地域住民等 10 万人	516
地球環境基 金助成事業	流域連携による環境保全	2019.4 ~ 2020.3	河北潟流 域	7	金沢市民その 他 50 万人	3,113
こなん水辺 公園協働事 業	河北潟とこなん水辺公園の自 然について来園者らに解説	2019.4 ~ 2020.3	金沢市	5	地域住民等 10 万人	589
地域連携事 業	干拓地における水辺と農地保 全活動	2019.4 ~ 2020.3	河北潟干 拓地	4	地域住民等 10 万人	2,812
交流促進事 業	地域環境保全のためのイベン ト、啓発活動	2019.4 ~ 2020.3	河北潟及 び周辺	4	地域住民等 70 人	138
市民科学出 版事業	研究成果物の普及等の事業	2019.4 ~ 2020.3	全国	4	地域住民等 10 万人	2,453
地域循環社 会事業	環境保全米、循環型の野菜の 生産拡大	2019.4 ~ 2020.3	河北潟周 辺	6	地域住民等 10 万人	4,024

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
受託事業	調査受託等	2019.4 2020.3	～ 石川県内	3	2,294